

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2019-97555
(P2019-97555A)

(43) 公開日 令和1年6月24日(2019.6.24)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
C 1 2 N 15/113 (2010.01)	C 1 2 N 15/113 Z N A Z	4 C 0 7 6
C 1 2 N 15/10 (2006.01)	C 1 2 N 15/10 Z	4 C 0 8 4
A 6 1 K 31/7105 (2006.01)	A 6 1 K 31/7105	4 C 0 8 6
A 6 1 P 21/04 (2006.01)	A 6 1 P 21/04	
A 6 1 P 25/00 (2006.01)	A 6 1 P 25/00	

審査請求 未請求 請求項の数 11 O L (全 30 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願2018-151757 (P2018-151757)	(71) 出願人	598015084 学校法人福岡大学 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号
(22) 出願日	平成30年8月10日(2018.8.10)	(71) 出願人	307010166 第一三共株式会社 東京都中央区日本橋本町三丁目5番1号
(31) 優先権主張番号	特願2017-234341 (P2017-234341)	(74) 代理人	100145403 弁理士 山尾 憲人
(32) 優先日	平成29年12月6日(2017.12.6)	(74) 代理人	100145104 弁理士 膝館 祥治
(33) 優先権主張国	日本国(JP)	(72) 発明者	福田 将虎 福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号 学校法人福岡大学内
		Fターム(参考)	4C076 AA95 CC01 CC09 CC26 CC27 CC29 CC41 EE59

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 オリゴヌクレオチド、その製造方法及び標的RNAの部位特異的編集方法

(57) 【要約】

【課題】 標的認識部位に付加するヌクレオチド数が少ないにもかかわらず、部位特異的編集を誘導可能な短鎖型の編集ガイドRNAを提供する。

【解決手段】 標的RNAを特定する第一オリゴヌクレオチドと、第一オリゴヌクレオチドの3'側に連結する第二オリゴヌクレオチドとを備え、前記第一オリゴヌクレオチドは、前記標的RNA中のアデノシン残基に対応する標的対応ヌクレオチド残基と、前記標的対応ヌクレオチド残基の5'側に連結し、前記標的RNAに相補的な塩基配列を有する15から30残基のオリゴヌクレオチドと、前記標的対応ヌクレオチド残基の3'側に連結し、前記標的RNAに相補的な塩基配列を有する3から4残基のオリゴヌクレオチドとからなり、前記第二オリゴヌクレオチドは、2から24個のヌクレオチド残基からなり、前記標的RNAに対する部位特異的編集を誘導するオリゴヌクレオチドである。

【選択図】 図1

